

災害への対応力を育てる 防災教育を推進しています

平成23年に発生した東日本大震災をはじめ、その後多くの大きな自然災害が続いています。昨年秋には千葉県全域で、台風15号などによる大規模な被害がありました。市内でも停電が続くなど、多くの被害を受けました。

市では今後の災害に備えるため「自分の身を守り、身近な人を助け、地域の安全に貢献できる力」を育て、自助・共助の意識を向上させる防災教育を推進しています。

防災教育で育てる四つの力

防災教育を推進していく中で、主に次に掲げる四つの力を育てています。

- 危険を察知する力 ●安全を確保する力
- 周囲を助ける力 ●地域の安全に貢献できる力

防災教育を実践する上での三つのポイント

- 地域の特性や問題点、過去の被災経験を知る
地域の脆弱性を把握し、想定される災害リスクを的確に捉えることが必要です。

- 行動し、身をもって体験する

まずは自ら行動に移し、体験することが大切です。

- 明るく、楽しく、気軽に実行する

防災を楽しむことと結び付け、日常生活の中で気軽に

継続できる取り組みを進める必要があります。

このほかにも地震や風水害などの災害だけでなく、自然がもたらす恩恵の面もよく理解し、その地域に暮らす誇りにつながるような取り組みも求められています。

飯岡小で行われている防災教育

飯岡小では東日本大震災での被災経験から、学年ごとに特色のある防災教育に取り組んでいます。その取り組みの一部を紹介します。

●かるたでひろげよう！ ぼうさいのわ(3年生)

3年生は災害の危険について調べて防災かるたを作り、2年生とのかるた大会で防災の知識を紹介しました。

●こんなときどうする？ じしん・つなみ(4年生)

災害時に役立つものを知り、新聞紙でスリッパを作る体験などを行いました。作成した防災グッズは校内に展示されました。



かるた大会(3年生)



展示された防災グッズ(4年生)

今後も旭市の災害の特性や防災体制について学び、災害に向けた防災教育を各校で推進していきます。

あさひ輝いた人々 第18回

さつまいもといえば この人

あなざわ まつ ごろう
穴澤 松五郎 (1880～1945年)



穴澤松五郎は甘藷(サツマイモ)栽培の普及に努力し、この地域の農業を発展させました。

明治13(1880)年に鶴巻村見広に生まれ、鶴巻尋常小学校を卒業後、農業に従事しました。

海上地区は砂地が多く、畑作をするには大変な苦労がありました。砂地でも栽培が出来るサツマイモに目を付け、栽培を行いました。次第に栽培が盛んになってきましたが、当時はイモ苗を育てる事ができず、よそから買ってくるしかありませんでした。買ってきたイモ苗は必ずしも収穫が保証されるものではなく、いろいろな品種が混ざっている場合もありました。

そのため松五郎は、イモ苗を自分たちで作ってみよう

と思い立ちました。ビニールがない時代であり、失敗に失敗を重ねましたが困難に耐え、ついに大正元(1912)年、幌を使った苗床「穴澤式甘藷苗床」を考え出し、自分たちでイモ苗を作ることに成功しました。

海上地区は松五郎のおかげで、サツマイモ栽培がさらに盛んになり、でんぷん工場もたくさんできました。第二次世界大戦前後の厳しい食糧難の時代には、サツマイモは貴重な食料の一つになりました。

このうわさを聞いた他県からも栽培指導の依頼があり、松五郎は日本各地に出掛けて行きました。外国からも要請があり、中国河北省でも栽培指導を行いました。

この功績により、昭和20(1945)年に緑綬褒章を受章しました。また農林大臣より「日本農林業振興功労者」として顕彰されました。

昭和48(1973)年、千葉県が選定した「千葉県の先覚」85人の一人にも選ばれています。



穴澤松五郎記念碑